

*会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。*カタログに記載された内容および製品の仕様は改良のため、予告なしに変更することがあります。
*本カタログの記載内容は2007年10月現在のものです。©2007 OBIC BUSINESS CONSULTANTS CO.,LTD. All rights reserved.

鈴与グループ150社にわたる 統合会計システムを 奉行V ERPシリーズで構築

奉行V ERP 導入モジュール

- ▶ 勘定奉行V ERP
- ▶ 債権管理Pro for 勘定奉行V ERP
- ▶ 債務管理Pro for 勘定奉行V ERP
- ▶ OBC Management Studio
- ▶ BACKUP奉行V ERP
- ▶ Webオプション

鈴与グループ150社にわたる統合会計システムを奉行V ERPシリーズで構築

物流事業や商流事業を中核に幅広い事業を展開する鈴与グループ。同グループの経理業務を一手に担う鈴与マネジメントサービスは、シェアードサービス会社としてグループ全体の経理業務の効率化などを目的に統合会計システムを構築した。グループ150社の経理業務を担う会計システムとして選ばれたのが「奉行V ERPシリーズ」だ。

導入背景

- ・グループ各社が個別の会計システムを使用
- ・シェアードサービス会社として、グループの管理業務の集約化が困難
- ・グループの経理業務の効率化、内部統制強化のための統合会計システムの構築

ソリューション

- ・勘定奉行V ERPシリーズによる統合会計システム
- ・DivaSystemによる連結決算システム

グループ会社の会計システムの統合をめざして再構築

創業200年を超える鈴与グループは、現在では鈴与株式会社を中心に約150社の子会社・関連会社から構成され、物流や商流事業など6つの事業グループに分けて事業展開している。その中核となるのが、清水港を基盤とした港湾物流や全国を網羅する陸上輸送・倉庫ネットワークなど、鈴与株式会社を中心とした物流事業だ。それと並ぶのが商流事業で、鈴与商事を中心として石油販売やガス事業、建設資材販売など幅広い商品・サービスを提供する。この他にも建設・ビルメンテナンス事業、食品事業、人材サービス事業、情報・地域開発・その他サービス事業などさまざまな分野で活動している。

そうしたグループ会社の中で鈴与マネジメントサービスは、グループ各社の経理業務、資金管理・支払業務、給与・社会保険関係業務など管理業務全般を受託するシェアードサービス会社として、2003年からサービスを提供している。

受託サービスを開始してから3年が経過し、グループ全体の経理業務の効率化、グループ経営情報の管理基盤構築、グループの内部統制機能強化を目的に統合会計システムの構築を目指した。「従来のシステム環境で

は、グループのシェアードサービス会社として目指している『会計業務の標準化・効率化・品質の向上の実現』が難しい環境でした。グループ全体や事業グループごとの管理連結や制度連結、内部統制への対応も困難であるとともに、各社が個別システムを保有していることによる運用コストの負担も多いという課題がありました」。代表取締役社長池上誠氏は、鈴与グループの統合会計システム構築の背景をこう述べる。

内部統制機能強化や連結会計対応とコスト優位性で奉行V ERPを選定

同社はこれまで、OBCの勘定奉行21Ver.Ⅲを利用して70社以上の会計処理を受託してきた。また、同時に鈴与および鈴与商事などグループ中核会社のメインフレームで稼働する会計システムを運用し、会計業務を行っていた。さらに同社が受託していない各社は独自のシステムを構築・運用するなどグループ内には20種類50システム以上が稼働する状況にあった。

当初のパッケージ選定の際には、奉行シリーズも統合会計システムとしての候補が上がっていたが、その他のERPベンダーの提案を受けた結果、海外ERPベンダーのパッケージでグループ150社の会計処理を1つのシス



Profile
鈴与グループ
 概要：鈴与ホールディングス(SHC) 物流事業分野(統括会社：鈴与)、商流事業分野(統括会社：鈴与商事)、建設・ビルメンテナンス事業分野(統括会社：鈴与建設ストラクチャーホールディングス)、食品事業分野(統括会社：清水食品)、人材サービス事業分野(統括会社：SHC)、情報・地域開発・その他サービス事業分野(統括会社：SHC)
 会社数：150社

鈴与マネジメントサービス株式会社
 所在地：静岡県清水区港町2-10-1 浪漫館2F
 設立：2002年4月1日
 資本金：1,000万円
 従業員：231名(平成19年9月1日現在)
 事業内容：鈴与ホールディングスの方針下でグループ各社にシェアードサービスを提供。経理事務および給与計算事務の受託、代行、一般労働者派遣業



鈴与マネジメントサービス株式会社 代表取締役社長 池上 誠氏

「奉行V ERPがグループ経営の今後を支えていくシステム基盤になっていくものと期待しています」



鈴与マネジメントサービス株式会社 受託事業統括部システムチーム 内野 達英氏

「グループの中核会社でも奉行V ERPを利用してみようという考えに変わりつつあり、グループの基幹システムとして使っていけると確信しています」

テムで構築することを目指した。しかし、中核会社の会計システムは業務システムと密接かつ複雑にリンクしているため、各社個別にパッケージを導入する必要があり、さまざまなリスクがあることが判明した。そこで中核会社は当面、既存の会計システムを継続利用することを前提に他のグループ各社(約130社)を1つの会計システムで統合し、全体(約150社)として決算のみ連結する道を選択した。そうした方針転換の中で、検討時に開発中だった「奉行V ERPシリーズ」が大きくクローズアップされてきた。

「奉行V ERPは、従来のラインアップと比較して内部統制機能が大幅に強化されていることをはじめ、債権債務管理や与信管理機能などが高機能化されたこと、さらにパートナー製品で連結決算にも対応できる点を評価しました。また、海外ERPと比較して、奉行V ERPシリーズの方が導入コストを抑えられることも選定の大きな理由でした」(池上氏)と、奉行V ERPシリーズに決定した動機を語る。

また、プロジェクトを主導した受託事業統括部システムチームの内野達英氏は、「最大の評価は、直感的でわかりやすいユーザーインターフェースでした」と述べ、加えて「奉行V

ERPでは取引先マスターによって取引先を一元管理できたり、ユーザーの一元管理が可能になるなど機能強化が図られ、シェアードサービス会社の基幹システムとして十分に耐えうるパッケージになっていると判断しました」と評価している。

グループ経営を支えていく基盤になるシステムと確信

同社は奉行V ERPシリーズを導入して、徐々に従来バージョンから切り替えを行っている段階だが、新システムによって受託会社ですでに100社を超えてサービス拡大を実現している。実際に業務受託を行っている現場サイドでは、債権・債務管理などで消込み作業と伝票処理が同時にできるなど業務効率向上が期待できると考えている。

「今後、中核会社の会計システムの再構築やグループ会社で共通して利用できる事業別業務システムの構築、あるいはグループ経営に必要な経営情報・取引情報に関するシステムの構築など課題はありますが、奉行V ERPが鈴与グループの次世代を支えていくシステム基盤になるものと確信しています」(池上氏)と統合会計システムに期待している。



オペレーションルーム



鈴与マネジメントサービス株式会社 第一受託事業部 マネージャー 内野 透氏

「業務委託元とオンラインで債権・債務管理情報を共有できるようになり、債権・債務業務のフォロー作業が効率的になると期待しています」



鈴与マネジメントサービス株式会社 第一受託事業部 第3チーム 久保田 真吾氏

「奉行V ERPの導入トレーニングを受けたことにより、システム全体のプロセスを理解することができました」

